

## 子宮頸がん予防ワクチン（9価ワクチン：シルガード9）説明書

接種にあたっては、この説明書をお読みになり、予防接種による効果や副反応、健康被害救済制度などよく理解し、かかりつけ医とご相談のうえ接種してください。

### ○ HPV ワクチン 9価（シルガード9）ワクチン効果

1. 9価ワクチンは、子宮頸がんおよびその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、膣上皮内腫瘍、尖圭コンジローマなどの発症に関係している HPV6. 11. 16. 18. 31. 33. 45. 52. 58 型の感染を予防するワクチンです。
2. その中でも、日本人の子宮頸がんの原因の 80～90%を占める 7種類（HPV16. 18. 31. 33. 45. 52. 58 型）の HPV の感染を予防することができます。
3. 9価に含まれている HPV 型以外の感染およびこれらによる病変の発症予防の効果は期待できません。また、すでに HPV6. 11. 16. 18. 31. 33. 45. 52. 58 型に感染している人に対して9価ワクチンを接種しても、ウイルスを排除したり、既に発症している HPV 関連の病変の進行を遅らせたり、治療することはできません。

### ○ 9価（シルガード9）ワクチンの副反応について

1. 9価ワクチン接種と関連性があると考えられた主な副反応は以下のとおりです。
  - ・ 頻度 10%以上：頭痛、注射部位の痛み・赤み・腫れ
  - ・ 頻度 1～10%未満：めまい、のどの痛み、発熱、注射部位のかゆみ・内出血・しこり、悪心、下痢
  - ・ 頻度 1%未満：腹痛、おう吐、筋肉痛、関節の痛み、注射部位の出血・血腫・熱っぽさ・硬結、無力症
  - ・ 頻度不明：蜂巣炎（皮ふ局所の痛みと熱を伴った赤い腫れ）、リンパ節の腫れや痛み、手足の痛み、寒気  
感覚の低下、気を失う、注射部位の知覚消失
2. まれに、過敏症反応（アナフィラキシー反応やアナフィラキシー様反応<呼吸困難、目や唇のまわりの腫れなど>、気管支痙攣<発作的な息切れ>、じんましんなど）、ギラン・バレー症候群（下から上に向かう両足のまひ）、血小板減少性紫斑病（鼻血、歯ぐきの出血、月経出血の増加など）、急性散在性脳脊髄炎（まひ、知覚障害、運動障害など）があらわれることがあります。このような症状が疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。

### ○ 予防接種健康被害救済制度について

極めてまれですが、予防接種を受けた方に重い健康被害を生じる場合があります。

HPV ワクチンに限らず、日本で承認されているすべてのワクチンについて、ワクチン接種によって医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害が残るなどの健康被害が生じた場合は、法律に基づく救済（医療費・障害年金等）の給付が受けられます。

### ○ 次の方は接種を受けないでください

1. 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃以上の場合）。
2. 重い急性疾患にかかっている方。
3. 9価ワクチンの成分（詳しくは医師にお尋ねください）によって、過敏症（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）をおこしたことがある方。
4. その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方。

○ 次の方は接種前に医師にご相談ください。

1. 血小板減少症や凝固障害を有する方。
2. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患がある方。
3. 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方。
4. 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方。
5. 過去に免疫不全の診断がなされている方もしくは先天性免疫不全症と診断された近親者がいる方。
6. 9価ワクチン成分（詳しくは医師にお尋ねください）に対してアレルギーを呈するおそれのある方。
7. 腎臓に障害がある方。
8. 肝臓に障害がある方。
9. 妊婦あるいは妊娠している可能性がある方。
10. 授乳中の方。
11. 9価ワクチン以外の HPV ワクチン接種を受けたことがある方。

○ 9価ワクチン接種後の注意点

1. 9価ワクチン接種後に、注射に対する恐怖、痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて、時に気を失うことがあります。接種後30分程度は安静にし、医師とすぐ連絡がとれるようにしておいてください。
2. 接種した部位が腫れたり痛むことがあります。これは、体の中でワクチン成分に対する反応が起こるための症状で、通常は数日間程度で治まります。
3. 接種後は、接種部位を清潔に保ち、接種当日は過激な運動をさけてください。
4. 接種した日に入浴しても問題ありません。ただし、体を洗うときに注射部位を強くこすらないようにしてください。
5. 接種後に体調の変化が現れたら、まずは接種を行った医療機関などの医師に相談しましょう。
6. ワクチンを合計3回または2回接種しますが、気になる症状が現れた場合は、それ以降の接種をやめることができます。
7. HPV ワクチンを接種した後も、ワクチンでは予防できない型の HPV による病変を早期発見し早期治療するために子宮頸がん検診の受診が必要です。20歳を過ぎたら子宮頸がん検診を受診しましょう。

○ 中学1年～高校1年相当の保護者で、接種に同伴しない方へ

これまで記載されている内容をよく読み、十分に理解し、納得された上でお子さんに接種するかを決めてください。保護者同伴せずに接種する場合は、「予診票」の（保護者が同伴しない場合）の面の質問事項及び保護者自署欄に署名してください。（保護者の署名がない場合は、受けられません。）

【9価ワクチン（シルガード9）の標準的な接種方法】※年齢によって接種回数が異なります。

接種開始の年齢	接種回数	接種方法	一般的な接種スケジュール
1回目の接種が15歳未満で接種	2回	筋肉内に接種	2回目を1回目の接種から6ヵ月後に接種。
1回目の接種が15歳以上で接種	3回	筋肉内に接種	2回目を1回目の接種から2ヵ月後に接種。 3回目を1回目の接種から6ヵ月後に接種。

※原則3回とも同一ワクチンで接種すること。

問い合わせ：常滑市保健センター 電話：34-7000